

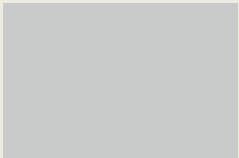
総長

濱田 純一

「行動シナリオ」を策定・公表してから 年が経ちました。平成26年度の行動シナリオフォローアップでは、シナリオの最終年度に向けて最優先する取組、充実すべき取組等を明らかにするため、10項目の重点テーマにわたる全ての事項に関して点検を行いました。各重点テーマで掲げる目標や取組事項の達成状況と見通しについて検証し、シナリオの最終ゴールに向けての具体的な対処を決定しました。

研究に関しては、国際高等研究所の拡充、リサーチ・アドミニストレーター（~~RA~~）の積極的導入による研究支援体制の充実など、国際的競争力を持つ卓越した研究のための環境整備を推進してきました。今後は、東京大学の国際的評価の更なる過去際的评价推進や~~科~~ 蹟<sup>グ</sup> 益腰のル 思翠の日

教員の研究活動の質の向上を図るため、教員とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果の活用促進等を行う専門職。本学では、リサーチ・アドミニストレーター推進室を中心に、全学でURA制度の確立・定着が図られている。



## 1. 学術の多様性の確保と卓越性の追求

### 【平成22～24年度までの総括】

本学における研究支援体制は、研究担当理事・副学長がこれを統括して、各種外部資金の獲得、大型特定プロジェクトの推進、総長室における学術推進支援室・総長室総括委員会の業務、文部科学省関係の事業等を、研究推進部が中心となって各部局と密接に連携・

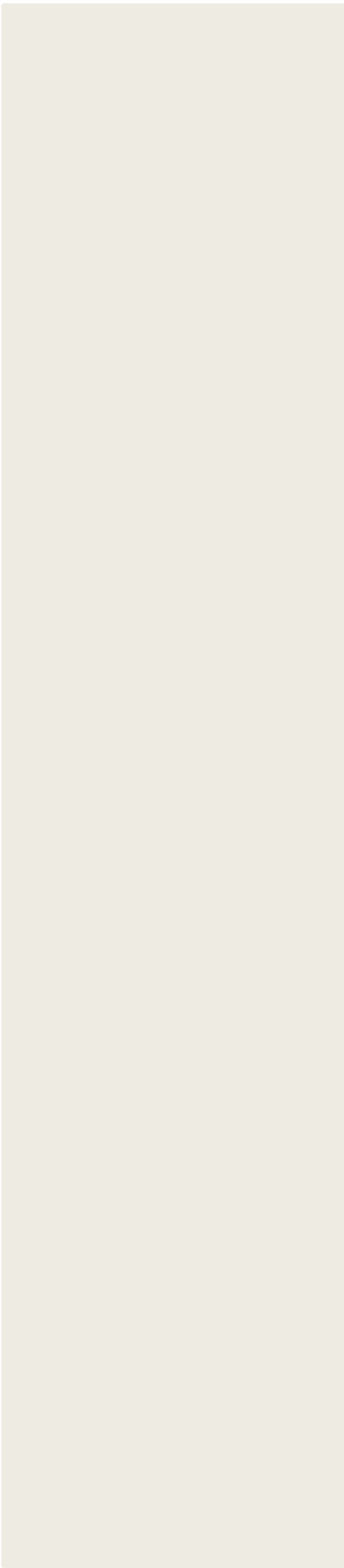
連携・

学術の多様性の確保と卓越性を追求するため、個々の研究活動を幅広く支援・育成していくと共に、質の高い研究者の育成、優れた研究支援者の育成等により、大学全体として研究支援体制の充実を図り、世界トップレベル大学として研究力強化を推進していくための支援を行う。具体的な取組として、世界最高水準の卓越した研究遂行のために、国際高等研究所においては、**国際高等研究所の常設機関化**に向けた体制整備、**国際高等研究所**（平成22年度まで）については、総合科学技術会議（平成22年度）による事後評価の対応及び後継機関の対応に向けた支援体制の整備を図る。**国際高等研究所**については、**国際高等研究所**制度定着に向けて学内において制度改革を進め、大学として研究マネジメント人材群の育成を図る。研究大学強化促進事業については、各部局の研究力強化を図るため、継続して実施していくことにより、研究支援体制の充実を図る。また、**国際高等研究所**等**の国際的**大学連合等の枠組みを通じて、国内外の研究大学間の連携強化を進める。さらに、総長室総括委員会の下に、公文書管理法に基づく法人文書の保存と活用及び東京大学史研究等を行える組織として**東京大学文書館**を平成24年度に設置し、平成24年度に内閣総理大臣による国立公文書館等の指定を目指すと共に、引き続き「**国際高等研究所**」の海外メディア及び大使館関係者向けのプレスツアー等を活用して積極的に学術情報を発信し、研究成果の社会還元を推進する。





興調整費事業によれ事業



## 経営の機動性向上と基盤強化

## 卒業生との緊密なネットワークの形成

---

赤門学友会ニュース

同窓会情報、国内外で活躍している卒業生のインタビューなど情報満載の会報誌。年2回発行。第24号より赤門学友会報「懐徳」からリニューアル。なお、赤門学友会は平成26年4穴機座魂畧獻園 と京伍巖と但

【平成

